オーディオ実験室収載

STAGE+を楽しむ(47)(HP 収載)
―ヘルムート・ヴァルヒャを聴く(4)―

１．始めに

前報(46)に引き続き、STAGE+のヘルムート・ヴァルヒャの演奏の試聴を実施します。

２．試聴音源

今回は、ヘルムート・ヴァルヒャのアルバム演奏を選びました。

ヘルムート・ヴァルヒャ（チェンバロ）

J.S.バッハ：平均律クラヴィーア曲集第１巻・第２巻

ヨハン・セバスティアン・バッハ

平均律クラヴィーア曲集 第１巻 BWV 846-869　第１番～第 24 番

平均律クラヴィーア曲集 第２巻 BWV 870-893　第１番～第 24 番

ヘルムート・ヴァルヒャのチェンバロの演奏があることは知りませんでした。演奏会では、第１巻と第２巻が別々に演奏されますが、このアルバムは合わせて第１巻と第２巻 276 分の全曲が収録されています。

ヴァルヒャのチェンバロの演奏は、チェンバロの繊細感を活かすよりは、オルガン演奏のような、力強く荘重な表現を目指しているように思われます。

バッハの曲の中には、思索的、哲学的あるいは求道的と言っていいものがあり、フーガの技法などがそうですし、この平均律クラヴィーア曲集も Goldberg 変奏曲や音楽の捧げものなどもそのような趣が感じられます。

ヴァルヒャの演奏は、そういったバッハに忠実で求道的な演奏をしているように感じられます。

第１巻は演奏会で聴く機会もありますが、第２巻はそうではありません。第２巻も第１巻同様、前奏曲とフーガが対になって 12 番×2 の 24 曲で構成されています。ヴァルヒャの演奏スタイルも音質も第１巻と変わりはありません。

以上